

# 日常診療 お役立ち BOX

## —産科／婦人科編

内診の方法と内診台がない場合の診察 習得難易度 ★★★★★

### 監修

井上真智子

(浜松医科大学地域家庭医療学講座特任教授)

柴田綾子

(淀川キリスト教病院産婦人科医長)

### 執筆



柴田綾子

(淀川キリスト教病院産婦人科医長)



池田裕美枝

(京都大学大学院医学研究科社会健康医学系  
専攻健康情報学分野)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続

1. 内診とは ————— p2
2. 内診の適応 ————— p2
3. 内診の準備 ————— p3
4. 内診の流れ ————— p6
5. 内診での観察項目 ————— p8

▶HTML 版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツ  
を制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

# 1. 内診とは

---

内診とは、医師が腔内に診察指を入れて子宮・卵巣・腔の状態を観察することを指す。思春期や性交歴のない患者では、内診を行わずに経腹エコーや直腸エコーで代用することもある<sup>1)</sup>。内診台がない診察室では、腰の下にタオルを敷くなどの工夫をしながら内診を行う。

内診を行う場合、まず患者に必要性を説明し同意を得た上、必ず看護師の立ち会いのもとで行うことが肝要である。

# 2. 内診の適応

---

内診は多くの女性にとって、心理的・身体的負担を伴う診察である。米国産婦人科学会では、内診、腔鏡診、経腔エコー診察は無症状の女性にルーチンで行う手技ではなく、症状や病態から必要があると認める時に行うべきとしている<sup>2)</sup>。ただし、指を入れて行う「内診」は、子宮頸がん検診や性感染症検査で行う「腔鏡診」とは異なる。腔鏡診は、無症状者にもスクリーニングとして行うことがある。

米国予防医療専門委員会 (United States Preventive Services Task Force : USPSTF) では、婦人科疾患のリスクの低い無症状の女性には内診は推奨していない。ただし(無症状であっても)21~65歳の女性には腔鏡診による子宮頸がん検診を推奨している(推奨 Grade A)。さらに、24歳以下の性活動のある女性と、25歳以上の感染リスクのある女性では(無症状でも)クラミジアと淋菌の検査を推奨している(推奨 Grade B)<sup>3)</sup>。

経口避妊ピルや低用量ピル(エストロゲン・プロゲステロン配合薬)の開始時・処方時に内診や経腔エコーは必須の検査ではない(米国産婦人科学会、日本産科婦人科学会)<sup>2)4)</sup>。また、遺伝性の卵巣がんリスクの低い無症状の女性に対して内診や経腔エコーによる卵巣がんスクリーニングの効果は不十分であり推奨されていない<sup>5)</sup>。

内診が必要とされる状況には、以下がある。

### <内診の適応>

- ・外陰部や膣の症状，または性器出血がある
- ・妊娠疑い，または妊娠中
- ・性感染症検査または性感染症への曝露がある
- ・下腹部痛の原因検索
- ・子宮・膣・生殖器の奇形が疑われる
- ・子宮頸がん/子宮体がん検査
- ・性暴力被害など

## 3. 内診の準備

### 1 本人の同意

内診によって、どんな追加情報が得られるかを本人に説明し、本人が希望する時にのみ行う。決して本人の意志を飛び越えない。診察者が女性であっても、必ず看護師など同伴者とともに診察する。このことについても、本人に説明し同意を得る（同意が得られないときは内診を見送ることも考慮する）。

内診経験の有無を聞いておくことは重要であり、時に「内診」の意味がわからなくてとりあえず同意している場合がある。未経産の場合は、性交渉経験の有無も確認し、性交渉経験がない場合には、処女膜損傷の可能性もあるが治癒することを説明する。

内診の経験がある場合にも、以前不快な思いをしなかったか質問をする。内診で痛みや不快な経験をしている場合、内診時に緊張のため骨盤底筋に力が入り余計に痛みを感じやすくなるため、同伴者に頭側に立ってもらうなど、本人が少しでも安心できるように工夫する。

## 2 内診が難しい場合

以下のような患者では内診を行わずに診療を進めることがある。

- ①性交歴がない患者
- ②乳幼児・思春期
- ③寝たきりなどで股関節が十分に開かないとき
- ④認知症が強いなど意思疎通が難しいとき
- ⑤内診に同意を得られないとき

内診を行わない場合は、経腹エコーや経直腸エコーで骨盤内の異常を検索したり、MRI検査を検討する。

## 3 内診で準備するもの

### <内診台があるときの物品準備>

- ・下着を脱ぐためのプライバシーが保たれた空間
- ・膝にかける大判の布またはタオル
- ・手袋
- ・ぬるま湯または潤滑ジェル
- ・ライト

### <内診台がない場合に追加で必要な物品>

- ・診察ベッド
- ・使い捨てのシート（診察ベッドの上に敷くもの）
- ・腰の下に敷く厚めのタオル